

トルコギキョウの秋切り栽培における品質向上技術

第1報 は種期, 短日処理が生育開花に及ぼす影響

佐藤 充

(福島県農業試験場会津支場)

Improvement of Quality in *Eustoma glandiflorum* for Fall Production

1. Effects of Seeding time and Short-day treatment on the growth and flowering

Mitsuru SATO

(Aizu Branch, Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

近年, トルコギキョウは, 消費の人气が高く, 全国的に生産量が伸びている。本県の作型は, 秋播き夏切りが一般的であるが, 出荷が6月~8月に集中するため, 比較的冷涼な気象条件をいかした春播き秋切りが増加する傾向にある。しかし, この春播き秋切り栽培は, ポリウム不足, 高温ロゼットによる不抽台や生育遅延などの問題がある。そこで出荷期をブライダルシーズンの10月に設定した作型で, 切り花品質の向上を目的とし, は種期と短日処理が生育開花に及ぼす影響について検討した。

2 試験方法

試験1 は種期及び短日処理と生育開花 (1991年)

グローリーピンクを供試し, は種は, 4月10日, 20日, 30日, 5月10日とした。短日処理は, 定植前(育苗期)30日間, 定植後30日間, 定植前後60日間(育苗期30日+定植後30日間), 定植前後80日間(育苗期30日+定植後50日間)の各時期にホワイトシルバーポリで被覆し, 9時間日長

(シェード時間17:00~8:00)で実施した。

栽植様式は, ベット幅90cm, 通路50cm, 株間12cm, 条間12cmの6条植えとした。施肥は, a当たりN1.8kg, P₂O₅3.0kg, K₂O1.8kgとした。供試株数は1区54株とした。

試験2 定植後の短日処理期間と生育開花 (1992年)

は種は, 4月10日とした。短日処理期間は定植後30日間, 40日間, 50日間とした。

供試品種, 短日処理時間, 栽植様式, 施肥量, 供試株数などは, 試験1に準じた。

3 試験結果及び考察

(1) は種期と生育開花 (試験1)

図1に, は種期が生育開花に及ぼす影響について示した。

4月上旬から5月上旬には種した場合は, は種から採花までの到花日数が150日前後で, は種期を遅くすることによって採花時期を遅らせることが可能であった。しかし, は種が遅くなるに従って, 定植から出蕾までの生育日数が短くなり, 低節位で着蕾してしまうために, 切り花長は短くなった(図1, 表1)。

表1 は種期・短日処理と生育・開花・切り花品質 (1991年)

播種期	短日処理期間	出蕾期(月日)	採花期			未採花率(%)	出蕾期の形質		切花長(cm)	L級以上比率	ロゼット状株率	日別最低気温の平均値	
			始期	盛期	終期		草丈	節数				育苗期	定植後
4月10日	無処理	8.8	8.28	9.4	9.13	0.0	35.3	11.2	71.4	52.3	0.0	11.2	18.0
	5.11~6.10	8.12	9.4	9.7	9.16	0.0	37.8	12.5	74.3	63.6	0.0	12.0	18.0
	6.10~7.10	8.19	9.10	9.17	9.24	0.0	41.3	13.7	79.1	86.7	0.0	11.2	18.4
	5.11~7.10	8.21	9.13	9.20	9.28	0.0	41.4	14.0	79.1	77.1	2.1	12.0	18.4
	5.11~7.30	8.25	9.20	9.27	10.9	0.0	44.2	15.8	83.8	92.9	0.0	12.0	18.4
4月20日	無処理	8.18	9.6	9.17	9.25	0.0	34.7	11.3	70.3	52.1	0.0	12.9	18.5
	5.21~6.20	8.20	9.10	9.19	9.27	0.0	38.2	12.4	74.1	66.0	0.0	13.6	18.5
	6.20~7.20	8.24	9.19	9.26	10.3	0.0	37.0	13.2	72.3	62.8	0.0	12.9	18.8
	5.21~7.20	8.25	9.19	9.27	10.4	0.0	37.4	12.8	71.8	62.7	0.0	13.6	18.8
	5.21~8.9	9.6	10.8	10.20	10.29	3.8	42.3	15.6	80.6	91.1	1.9	13.6	18.8
4月30日	無処理	8.23	9.13	9.25	10.4	0.0	31.4	10.7	66.6	40.0	2.2	14.5	19.0
	5.31~6.30	8.28	9.24	10.3	10.17	2.0	32.8	11.6	67.0	37.0	0.0	15.0	19.0
	6.30~7.30	9.3	10.4	10.12	10.22	1.9	33.7	12.4	71.4	58.8	0.0	14.5	19.4
	5.31~7.30	9.6	10.5	10.20	-	13.7	32.7	12.4	69.1	56.1	0.0	15.0	19.4
5月10日	無処理	8.29	9.25	10.4	10.17	0.0	28.1	10.8	60.4	10.4	5.7	16.1	19.8
	6.10~7.10	9.3	9.30	10.13	11.1	6.7	29.9	11.2	62.9	20.8	3.4	16.7	19.8
	7.10~8.9	9.14	10.28	11.15	-	40.4	35.7	12.6	68.1	50.0	9.6	16.1	20.3
	6.10~8.9	9.15	10.29	-	-	50.0	36.2	12.4	69.6	53.3	12.0	16.7	20.3

注. 採花期: 始期10%, 盛期50%, 終期90%採花時, 採花は2~3輪開花時, 未採花率: 11月15日時点
L級: 70cm以上, 日別最低気温: 育苗期60日間と定植後30日間の日別最低気温の平均値

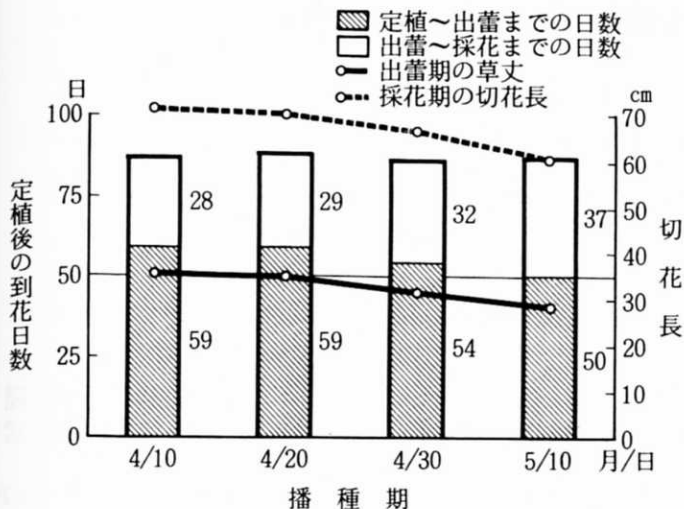


図1 播種期が生育開花に及ぼす影響

(2) 短日処理と生育開花 (試験1)

図2に、短日処理が生育開花に及ぼす影響について示した。短日処理により、定植から出蕾までの生育日数が長くなり、着蕾節位が高まって、出蕾期の草丈及び採花期の切花長は長くなった。また、切り花品質は処理期間が長くなるに従って、到花日数が長くなることにより向上した。定植前と定植後の処理についてみると、同じ30日間でも定植後処理は到花日数が長くなり、開花遅延効果が高い傾向を示した。これらは、各は種期とも同じような傾向を示した(表1, 図2・図3)。

(3) は種期・短日処理とロゼット化 (試験1)

ロゼット化は、4月下旬までには種されたものについては高温期の8月上旬にかけての短日処理でも問題にならなかった。ただし、は種期が5月以降になると、ロゼット株は発生が多くなり、特に、高温期における短日処理で発生が多くなった(表1)。

表2 定植後の短日処理が生育・開花に及ぼす影響 (1992年)

処理期間 (日)	出蕾期 (月・日)	遅延 日数	採花期 (月・日)	遅延 日数	出蕾期の形質		切花長 (cm)	切花重 (g)	分枝数	有効花蕾数	茎径 (mm)
					草丈	節数					
無処理	8.15		9.11		36.0	13.3	66.0	38.7	2.4	11.0	5.0
30	8.22	7	9.22	11	36.2	13.8	72.8	54.5	3.1	13.5	5.6
40	8.29	14	10.6	25	40.8	15.8	76.6	58.0	3.3	13.9	5.8
50	9.3	19	10.18	37	45.9	17.6	79.4	58.8	3.5	13.2	5.5

注. 採花は3輪開花時, 有効花蕾数: 蕾長1cm以上のもの

4 まとめ

以上の結果、花芽分化に対し温度の感受性が低く、短日条件下で開花抑制できる中晩性品種では、は種期と短日処理期間の組合せにより、採花期とその形質をある程度調節す

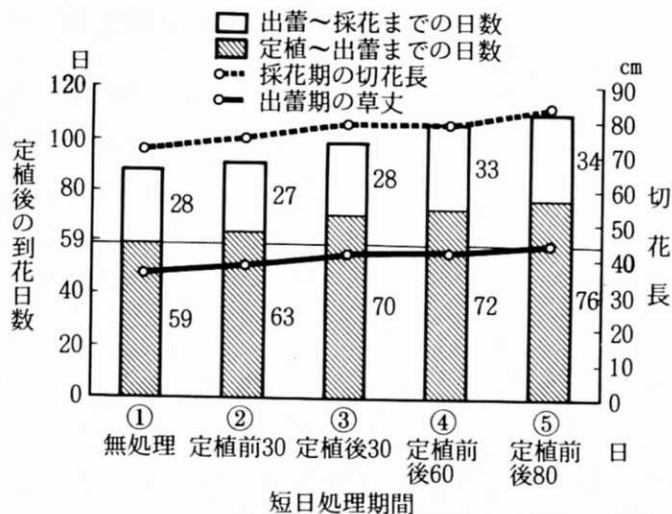


図2 短日処理が生育開花に及ぼす影響 (4月10日播種)

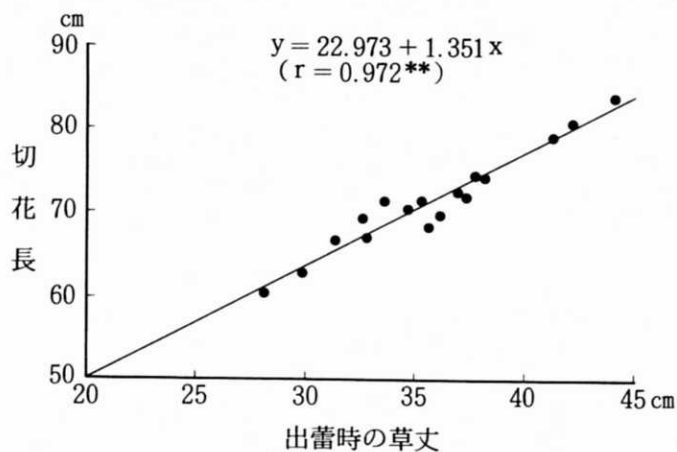


図3 出蕾期の草丈と切花長との関係 (1991年)

(4) 定植後の短日処理期間と生育開花 (試験2)

定植後のみ短日処理をするこの試験においても、試験1と同じような傾向を示し、採花時の切り花品質は処理期間が長くなるに従って、開花期が遅くなることにより向上した(表2)。

ることが可能であるといえる。採花のピークを10月にし、しかも品質を向上させるためには、は種期を4月上旬～中旬とし、定植後から8月上旬まで短日処理をすることが有効であると考えられる。